



# 虹色

平成 23 年 1 月

＝ 発 行 ＝

秋田県生涯学習センター

〒010-0955 秋田市山王中島町1-1

TEL : 018-865-1171

FAX : 018-824-1799

E-mail : sgccn002@mail2.pref.akita.jp

編集担当：社会教育アドバイザー

平成 23 年の幕開けです。平和で活力ある一年になるよう全県各地で祈りが捧げられたと思います。それにしても寒い毎日です。野山に住む動物たちは、どのように過ごしているのでしょうか。

受験シーズンを迎えました。夢と希望に燃えて頑張っている子どもたちに大きなエールを送りたいと思います。秋田県の未来を築いてくれる大切な子どもたちです。秋田に埋もれている宝物を掘り起こして生かしていく存在に成長してほしいと思います。

## 秋田県国公立幼稚園教育研究協議会開催

平成 23 年 1 月 7 日

< 研究主題 >

「健康な心と体を育て、幼児が進んで食べようとする気持ちをもつためにはどのような環境の構成や教師のかかわりが必要か」



研究発表



グループで協議



講演

美郷町立仙南幼稚園と由利本荘市立西目幼稚園の研究発表がありました。研究発表で強調されたことは、「おいしく楽しく食べるためには、まず、遊びを充実させること」「おいしく食べることは、心と体が満たされることであり、意欲的に生活（遊び）を進める源である」「食や生活のリズムの大切さを意識して、家庭と園が連携すること」「安心して思いっきり遊べる環境の構成や子どもの心に寄り添ったかかわりが大切である」などです。

新年早々、参加された先生方は真剣そのものでした。

### < 講演から学んだこと >

演題 「いのちはいのちからしか学べない～いのちの環境と食育実践」

講師 東京都市大学人間科学部児童学科 准教授 倉田 新 氏

- ・ 保育所・幼稚園は、子どもたちの原風景が作られるところです。幼児期の豊かな原風景は、温かみのある緑豊かな命の環境が望ましい。
- ・ 人や自然とかかわる体験が、子どもの感性を豊かにします。水遊びをしたり、虫や魚を捕まえたり、友達と夢中になって走り回ったりなど、実際に体を動かして人や自然にかかわることが大切です。その感性教育の一つに食があります。感性の豊かな発達には、遊びは欠かせません。
- ・ 「いのちを大切に作る心育てる」ことが、保育・教育において最も崇高な根本原理です。
- ・ 食農保育に取り組んでみましょう。食農保育とは、幼児期の原体験として幼児の生活の場を舞台にして、命に触れ、食を通して子どもたちの豊かな感性を育て、地域の文化を再生し、地域の自然や人とつなげていく保育です。
- ・ いのちはいのちからしか学べません。動植物とは、子どもの成長に応じたふれあいがあります。年齢ごとの年間指導計画・月間指導計画に飼育栽培や食農保育の計画を立ててみましょう。

なまはげの声の荒きは子細あり  
還暦の些々たる誓ひ今朝の春  
綱曳や闇を揺さぶる声で引く

武藤

四郎作



**テーマ「父親の力で子どもを変えよう」**

「全県父親交流大会 ～お父さん！楽しく遊んでいますか～」が開催されました。この大会のねらいは地域や子どもとの関わりが少なくなった父親たちが、父親ならではの知識と経験、人脈を生かし、子どもと一緒に行動に参加することにより、教育的な効果をあげていこうというものです。

本大会では、「父親の力で子どもを変えよう」というテーマで3団体の事例発表があり、その後グループで協議をしました。



**「鷹巣中央小学校豪風関杯校内相撲大会もりあげ隊」 事例発表 佐藤 範和 氏**

中央小学校OBである豪風関（相撲界で大活躍中）を迎えながら、校内の相撲大会復活を成し遂げたドラマチックな父親たちの挑戦が紹介されました。活動では、地域のお年寄りの力を借りたり、学校の体育の授業と関連させたりして、学校と「もりあげ隊」と地域の連携を生かした活動に発展させました。土俵整備、まわしの付け方講習会などの準備をしながら大会開催に至りました。大会では、男子も女子も夢中になって相撲を取りました。子どもたちは、豪風関と相撲を取り、感激一杯だったようです。豪風関を囲んでの懇親会に出席した地域のお年寄りが、「このまま死んでもいい」と喜びを語ったそうです。校内行事から父親同士のかかわり、父親と子どもたちとのかかわり、地域とのかかわりも生まれ、充実した活動が展開されたようです。



**「山王中学校ガム取り研究会」 事例発表 安宅 信之 氏**

秋田市の竿燈大通りを中心とする「山王地区」の美化活動としてガム取り活動を展開させた結果、父親同士や子どもたちとのコミュニケーションを図ることができたとの事例発表でした。参加者は、歩道にへばりついたガムの多さに驚いたようです。また、「子どもと一緒に同じ活動をすることは、貴重な経験でした」「普段歩いているところなのに想像以上にガムが落ちていて驚いた。機会があればまた参加したい」「地域全体の美化活動のきっかけになればよい」「このような活動を通して、保護者同士の親睦を深めることができればよい」などの感想が参加者から述べられたようです。

**「高梨小学校釣り魚研究会」 事例発表 熊谷 孝弘 氏 田村 雅史 氏**

高梨小学校では、「父親の参画による地域教育力活性化事業」に5グループ（釣り魚研究会・自然を楽しむ会・人を愛する会・内陸線に親子でのってみる会・真冬を楽しむ会）が申請し、それぞれが活動しています。釣り魚研究会では、釣りの好きな親子が防波堤で夜通しの釣りを体験しました。「釣りに夢中で写真を撮る暇がなかった」「子どもたちは、登る朝日に感動していた」「釣った魚150匹は、塩焼きにしてみんなで食べた」「普段魚を食べない子も食べていた」と発表者は熱く語りました。「企画から実施まで父親たちだけで行ったが楽しかった」「来年度は、近隣の小学校と合同で実施してみたい」などと思いが広がってきたようです。

本事業では、奉仕活動、親子登山、地域のまつりへの参加、地引き網体験、通学路のゴミ拾いなど、特色のある様々な活動が展開されています。活動を立ち上げる段階では苦勞があるようですが、行動力のあるお父さん方なので、一旦動き出すと活動はどんどん進んでいくようです。

グループ協議では、「社会性を育てるために子どもたちに様々な体験をさせたい」「子どもと同じ体験をして、親も子どもと一緒に成長していく必要がある」「父親たちが、まず、動き出すことが大事」「活動は、地域と学校の活性化につながるようだ」などの意見交換がありました。

